

## ◆ 今週のコメント

- 手足口病の定点当たり報告数は、1.93(79例)で、2週連続で減少しているものの、第30週(7月22日～7月28日)以降、10週連続で過去5年平均値を上回っています。年齢階級別では、1歳が25例(31.6%)で最も多く、次いで、2歳 18例(22.8%)、6～11箇月及び4歳 各9例(11.4%)となっています。本年、京都市衛生環境研究所で分離・検出した手足口病由来のウイルスは、すべてコクサッキーウイルスA6(CA6)で、7例となっています。(10月3日現在)

## ◆ 今週のトピックス: <RSウイルス感染症>

RSウイルス感染症の定点当たり報告数は0.76(31例)で、前週 1.15(47例)よりも減少したものの、第34週(8月19日～8月25日)以降、6週連続で過去5年平均値を上回っています。詳細をトピックスに掲載しています。

## ◆ 発生状況

### 全数把握の感染症

ありません

### 定点把握の主な感染症

(市内定点数 インフルエンザ定点68, 小児科定点41, 眼科定点10, 基幹定点1)

定点	感染症名	定点当たり報告数	報告数
インフルエンザ*	インフルエンザ	0.00	0
小児科 (降順5位まで)	① 手足口病	1.93	79
	② 感染性胃腸炎	1.54	63
	③ RSウイルス感染症	0.76	31
	④ 突発性発しん	0.41	17
	⑤ 水痘	0.34	14
眼科	流行性角結膜炎	0.50	5

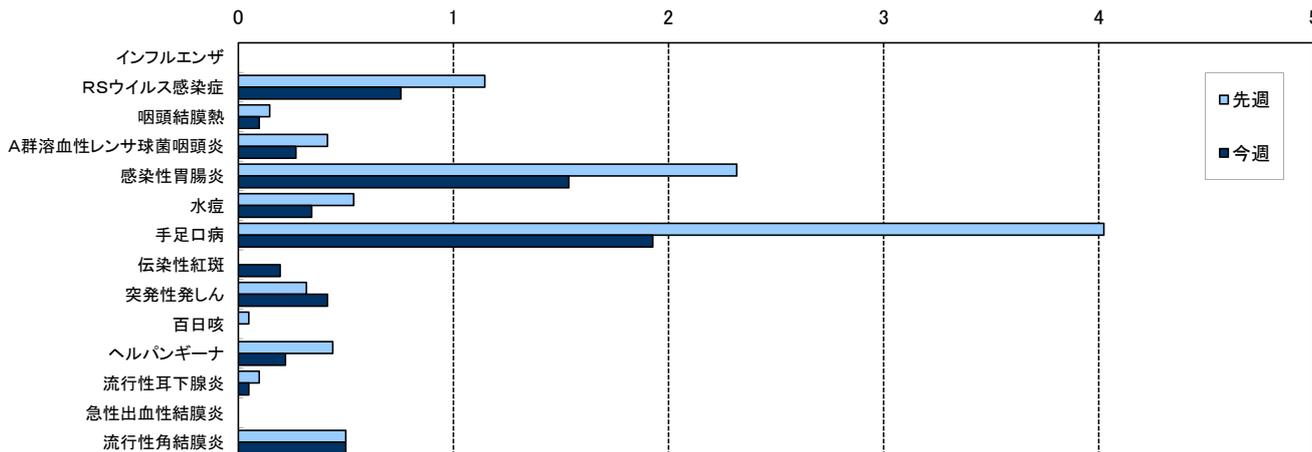
## 【次ページ以降の主な内容】

発生状況の概況グラフ / 今週のトピックス: <RSウイルス感染症>

(注) 京都市のデータは、平成25年10月3日現在の報告数で、全国の還元データと若干異なる場合があります。  
また、本情報での患者数は、届出医療機関所在地での集計で、患者の住所を示すものではありません。

# ◆ 発生状況の概況グラフ

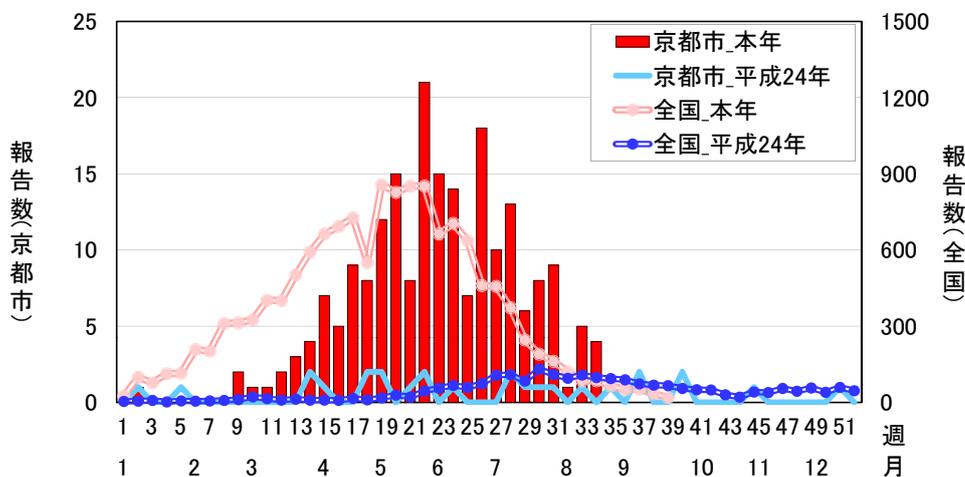
## 1 今週(第39週)と先週(第38週)の定点当たり報告数の比較



## 2 風しんの推移

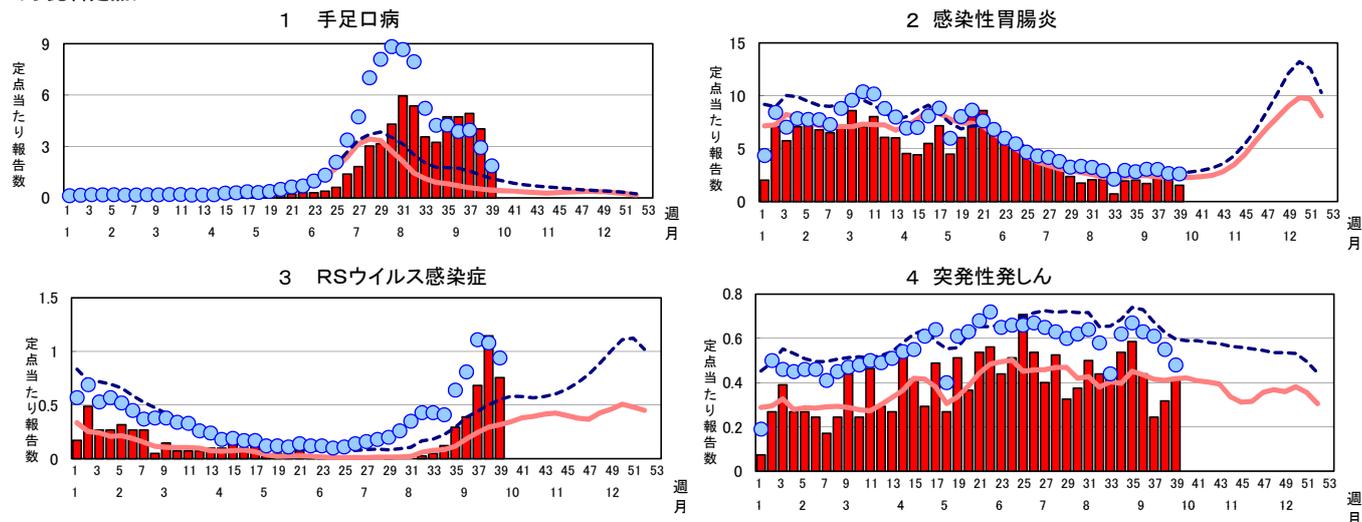
今週の報告数(累積報告数)  
平成25年10月3日現在

京都市	0例 (209例)
京都府(京都市を除く)	0例 (112例)
近畿6府県	10例 (5207例)
全国	19例 (14108例)

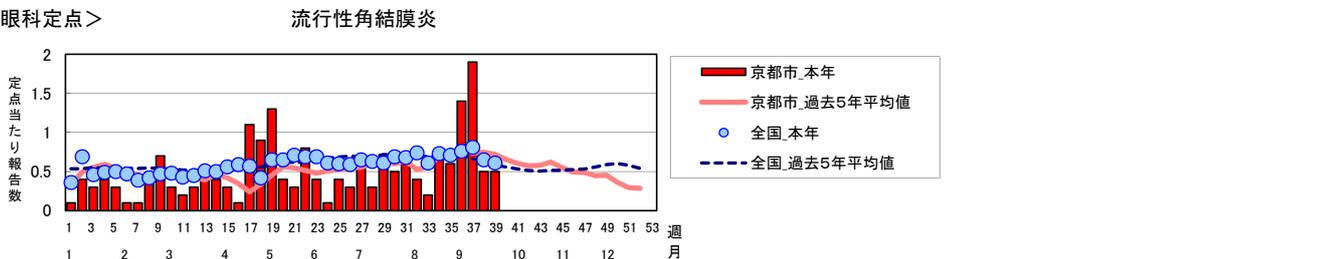


## 3 主な感染症の定点当たり報告数の推移

<小児科定点>



<眼科定点>



## 第39週(9月23日～9月29日)トピックス: <RSウイルス感染症>

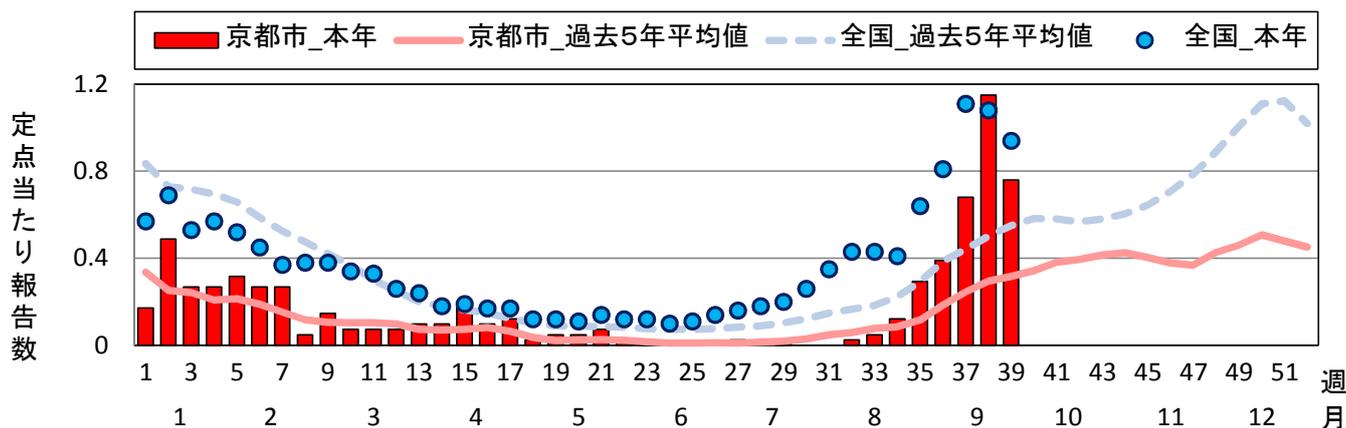
RSウイルス感染症の定点当たり報告数は0.76(31例)で、前週 1.15(47例)よりも減少したものの、第34週(8月19日～8月25日)以降、6週連続で過去5年平均値を上回っています。「感染症法」において定点把握対象に指定された平成16年以降の同時期と比較して、最も多かった平成24年に次ぐ報告数となっています。全国でも、2週連続減少しているものの、過去5年平均値を上回る状態が続いています。

平成22年まで秋から冬にかけて流行していましたが、平成23年、平成24年と2年連続して夏頃から報告数が増加しており、本年も第34週(8月19日～8月25日)以降連続して過去5年平均値を上回っています。今後の動向にご注意ください。

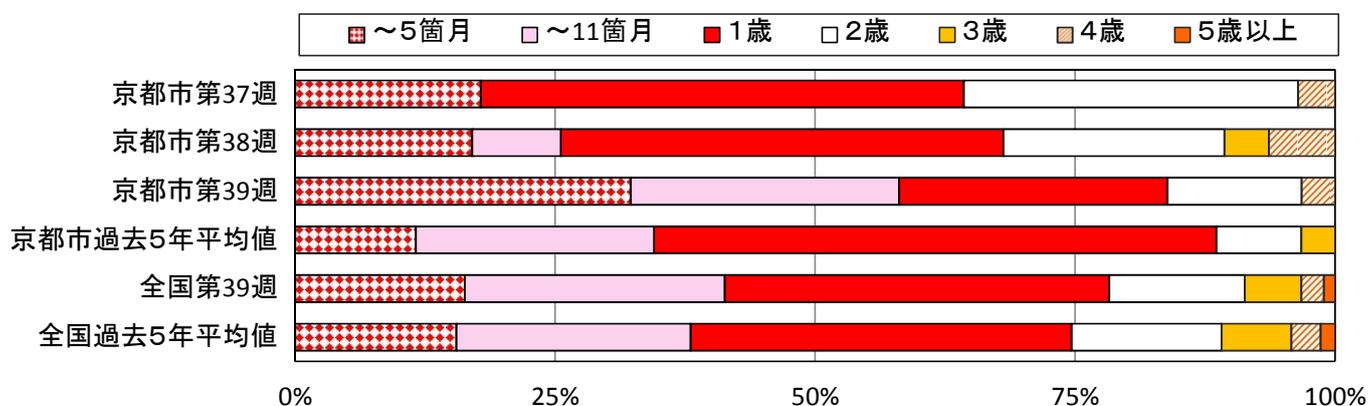
年齢階級別では、0～5箇月が10例(32.3%)と最も多く、次いで6～11箇月及び1歳 各8例(25.8%)、2歳 4例(12.9%)となっており、0～2歳が96.8%を占めています。

都道府県別では、47都道府県中18県で前週よりも増加しています。また、近畿6府県においては、2県(滋賀県及び兵庫県)で前週よりも増加しています。

京都市及び全国の定点当たり報告数の推移



京都市の年齢階級別割合の推移



都道府県別定点当たり報告数の推移

